



ロゴスだより

四国基督教学園・四国学院短期大学
四国学院大学・四国学院大学大学院

新学科・新学部新設に向けて

学院再生・発展への道

四国学院同窓会 会長 林 邦彦 (1968年度 英文学科卒)



四国学院同窓会会員の皆様には、ますますご健勝のことと心からお喜びを申し上げます。また、平素は同窓会活動にご協力、ご支援を頂いておりますことに対し厚くお礼を申し上げます。同窓会会報の「ロゴスだより」も学院創立50周年記念号を発刊してから今回で第5号を数えるに至りました。これもひとえに皆様方のご協力のたまものと感謝致します。

今、私立大学をとりまく環境の変化は、少子化による18才人口の激減で非常に厳しい状況にあり、全国で定員を満たせない私立大学は約3割に迫ろうとしています。我が四国学院も例外ではなく、大学・短大の存続において厳しい状態におかれています。数年のうちに100%合格時代が来ると言われ、大学の選別、淘汰の時代に入り、魅力のない私立大学・短大は厳しい経営を迫られ、昨今大学の倒産(合併)ニュースも聞かれるような状況であります。本学も2003年度から「カルチュラル・マネジメント学科」を新設し、また2004年度からは社会福祉学科を社会福祉学部へ昇格させ、多様化する地域や学生のニーズに応えるべく改組転換等、努力致しております。

このような厳しい状況のなかでこの度、四国学院大学・短期大学の学長に末吉高明教授が選任されました。また今期、大学の理事改選に伴い、理事長として同窓会から根来泰治氏(広島県支部長)、そして理事長補佐として菅照昌氏(愛媛県支部)が選任されました。新学長・理事長をはじめ、教職員が一丸となってこの難局を乗り越え、「再生=リクリエイト」し、ますます発展するために、皆様のご協力とご支援を頂きながら、同窓会も全面的にバックアップをしていきたいと思っております。

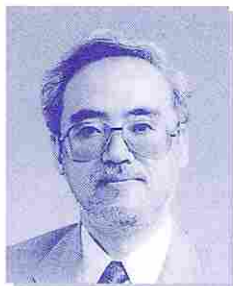
我が同窓会の会員一人一人が果たすべき役割は極めて大切であり、また、我が同窓会が果たすべき役割は極めて重要であり、今期の事業計画として、同窓会本部、支部活動の強化・充実、未設置支部の設置、そして学院への学生募集・就職等の支援活動をあげています。その為には、同窓生同士が親睦を回り各支部の組織化と本部との連携を深め、同窓会活動の活発化を進めていくことが重要だと考えています。これから同窓会も積極的に大学経営に参加し、会員の意見が反映できるようにどんどん述べていきたいと思っております。

今後「ロゴスだより」を通じて四国学院の状況や四国学院同窓会、各支部の活動報告をお伝えしていきます。皆様からも近況報告やご意見、ご要望をどしどしお寄せ頂き積極的なご参加をお待ち致しております。また、ロゴス館へもお気軽にお立ち寄りくださいますようお願いしております。

最後になりましたが、今後共、同窓会活動に対しましてご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますと共に、皆様方のご多幸とご健勝を心よりお祈り致します。

学長就任に際して

大学のリクリエイト 四国学院大学・短期大学 学長 末吉 高明



吉田卓司前学長の後を受けて、私が学長職に就くことになりました。一言ご挨拶を申し上げます。

四国学院は、創立以来、キリスト教信仰の人間観に立脚して「人間を問い、知を生きる」学府として、歩んできました。それは、時に、地域社会にあって「国際性」を求める「英語の四国学院」、人々に対して生活の場での隣人愛の実践を遂行しようとする「福祉の四国学院」と表現されてきました。これらの伝統は「人間を問い、知を生きる」試みの一環であったといつて良いでしょう。「人間を問い、知を生きる」試みは、本学の誕生であり、現在の人文学科の前身であるキリスト教学園と共に始まりました。その後、大学院の設置と教育学科と社会科学の増設等を経て、文学部一学部から社会学部を創設したときは、応用社会学科というユニークな応用分野に視点を連結させた学科を設置しました。さらに、大学院の拡充を経て、本年度は、「英語の四国学院」を支えた英文学科を言語文科学科としてより幅広いものに充実発展させると同時に社会学部には、文化によって地域社会を活性化させグローバルな活動の展開までも視野に入れることの人材育成を目指して、全国的にも珍しい学科、カルチュラル・マネジメント学科を新設しました。

来年度は、今までの社会福祉学科を拡充独立させ、社会福祉学部を創設しようとしています(学部創設届け申請済み)。社会福祉学部の創設は、これまた、建学の精神を踏まえ「人間を問い、知を生き」ようとする新たな第一歩です。言うまでも無く私たちは、他の多くの私学が直面している深刻な危機的状況を経験しつつあります。この危機を打開するには、何よりも、緊急に本学の建学の精神の確認作業と内実化の作業がなされなければなりません。そのためには、社会福祉学部創設に引き続き、今までの負の歴史を克服し、正の遺産を引き継ぐ、キャンパスの再生と再創造する気概の共有が必須です。具体的な課題としては、短期大学の今後の方向性、図書館増築を初めとして、人権と社会福祉の交流、地域社会と国際社会の文化の交流、教養教育の再整備と充実、課外活動の強化発展などがあります。これらの課題に逐次着手する予定です。

「人間を問い、知を生きる」本学院の建学の原点を再度確認して、キャンパスの新たな形成に向けて、微力で資質にかける面が多々あると思いますが、学長として最善を尽くしたいと思っております。皆さんの心よりのアドバイスとご協力を強くお願い申し上げます。

2002年度四国学院同窓会総会報告

日時 2002年9月14日(土)午後2時～5時40分 場所 四国学院内

学院から吉田卓司学長他、多数の恩師をお招きし総勢130名のご出席を賜りました。

次の通り決議致しましたのでご報告致します。

総会(仰光館)

議事(報告承認の部)

1. 事業報告及び会計決算報告(1999年度～2001年度)

事業報告

林邦彦会長より次の通り報告があり承認されました。

①本部関係活動報告

役員会開催、支部結成準備会、支部結成総会、会報発刊等の年間を通じての活動報告ありました。

②支部活動報告

広島県支部、香川西部支部、徳島県支部、高松支部、愛媛県支部総会が開催され新に滋賀県支部が発足されたことが報告されました。

③ロゴス館の運営状況報告

3年間に延6088人の在学学生、同窓生の利用者があったことが報告されました。

④同窓会より四国学院理事の選出

四国学院理事会及び四国学院評議委員会において同窓会推薦の根来泰治、菅照昌氏が四国学院理事に選出されたことが報告されました。

⑤同窓会会報「ロゴスだより」

年1回発刊の会報が2002年度で第4号を迎え、今後も続刊させていきたいことが話されました。

会計決算報告

平田晶子会計より、同窓会収入、支出、残高の会計決算が報告され承認されました。

監査報告

山田昭和監事より、同窓会の財産の確認並びに役員の実務執行状況が良好であると報告され承認されました。

2. 事業計画及び会計予算(2002年度～2003年度)

林会長より事業計画と会計予算について提案があり承認されました。

事業計画

①本部活動の強化・充実 ②学院理事会との意見交換会 ③既設支部の強化 ④未設置支部の設置 ⑤学院への学生募集、就職等広報支援活動 ⑥同窓会会報「ロゴスだより」の定期年発刊

3. 役員改選

林会長より現役員に引き続き再任をお願いしたい旨、提案があり承認されました。

記念講演会(聖恵館)

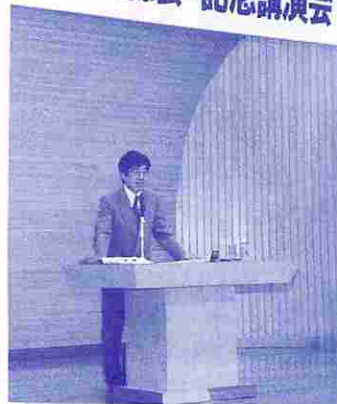
総会后、四国学院大学の漆原光徳教授により「正しいダイエットと食生活」について大変興味深いお話を頂き、一般の方々も沢山ご参加くださり好評でした。

懇親会(共生館)

同窓生、恩師の交流が図られ時を忘れて語りました。

次回総会にも多数のご出席を賜りますようお願いしております。

同窓会総会 記念講演会



役員

顧問	金 仲 基	1965年度	英文学科卒
	柏原 宏康	1965年度	英文学科卒
	服部 健二	1970年度	人文学科卒
会長	林 邦彦	1968年度	英文学科卒
副会長	岩崎 啓一	1973年度	人文学科卒
	牧本 憲尚	1977年度	社会福祉学科卒
書記	岡本 喜久子	1966年度	英文学科卒
	山本 宏	1977年度	英文学科卒
会計	平田 晶子	1972年度	英文学科卒
	増田 美恵子	1977年度	英語科卒
監事	山田 昭和	1960年度	英語科卒
	宮内 忠利	1968年度	英文学科卒

愛媛県支部総会のご報告

事務局 山上 明 (1974年度 社会福祉学科卒)

愛媛県支部総会は、2002年7月20日(土)東京第一ホテル松山を会場に、吉田卓司学長をはじめ林会長、岩崎副会長、柏原顧問のご臨席を賜り、36名の支部会員出席のもと盛大に開催されました。

愛媛県支部総会は、昭和50年代頃から有志の世話人により、これまで数回開催してまいりましたが、今回は支部の存在の再確認と組織の確立を図ることを目的に開催されました。

まず総会では、懐かしいカレッジソングを斉唱した後、佐々木信也支部長よりこれまでの経過説明を含めた挨拶があり、続いて来賓としてご出席を頂きました吉田卓司学長、林会長よりご挨拶を賜りました。

議事に入り、支部活動報告、役員選出、予算案の承認が行われ総会は無事終了致しました。

引き続き懇親会が開かれ、柏原顧問のご発声で乾杯したのち会食に入りました。「よう久しぶり、お互いに太ったな。」「あれからどうしてたの?」「同級生の彼はどうしてる?」など早速情報交換。お酒が進むと「俺はあの頃よくもてた」など自慢話も。ドラえもんポケットでタイムスリップしたかのような懐かしい雰囲気になりました。また、互いに名刺を交換しあうなど、世代を越えた交流も行われました。そして、楽しいひとときを過ごし、お互いの再会を約束し終了致しました。

関東支部 総会のご報告



支部長 山田 昭和
(1960年度 英語科卒)

2002年11月16日(土)午後1時30分より、「東京YMCAホテル」にて23名のご出席を賜り支部総会を開催致しました。年代を越えて学生生活の思い出や個人の消息も話し合い、互いにそれぞれのところで自己実現と良い証の生活をしていることなど、力と励みになりました。学院が、この厳しい時代背景の中で学生募集や経営姿勢のことなど、厳しい状況にありますが、いま一度、建学の精神に立ち帰りつつ21世紀の日本に対してメッセージを明確にし、存続の意味を問い直すことができるようにと願っておりますが、関東支部は置かれている位置を自覚しつつ、1つの肢体として効果的な機能を果たすことができるようにと考えています。今回お越しになれなかった方は、是非、次回お会いできますことを心よりお待ちしております。

～支部発足に向けて～

同窓生数も17000名を越えました。四国学院同窓会では、現在、主に中国・四国において7割の同窓生がいずれかの支部に所属できるまでになりました。さらにより多くの同窓生に「支部会のご案内」をお届けできるよう、只今、未設置地域の支部結成に向けて準備をしています。各地元在住の同窓生によるご協力が是非共必要ですので、ご支援ご協力を頂けます方のご連絡を心よりお待ちしております。また「支部結成総会のご案内」が届きましたらご出席を賜りますようお願い申し上げます。

同窓生からのお便り

～異文化の中で～



木村 有美
(2000年度 応用社会学科卒)

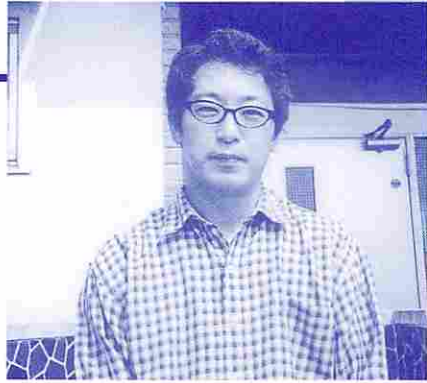
マレーシアの首都クアラルンプールに住んで、10ヶ月になる。私は今、MARA日本語センターという政府の機関で日本語教師として働いている。これから書く事は、マレーシアという異文化の中で私が感じた事を書こうと思う。

マレーシアというとみなさんはどんなイメージがあるだろうか?ここマレーシアはマレー系、中国系、インド系、そして先住民族が住む多民族国家である。言葉もそれぞれの母語、英語など多くの言語で話されている。私が働いている機関の生徒とスタッフはほぼマレー系で、母語もマレー語である。マレー系はその多くがイスラム教徒である。生徒もスタッフもそれぞれ自分の文化や宗教を誇りに思っている。それぞれがいろんな形で私にイスラム教のことを教えてくれる。それはとても勉強になるし、彼らを理解する助けにもなる。しかし、彼らから、私の文化や背景を知ろうという姿勢はあまりないように感じる。なにか疑問があってもどうしてかと聞かず、日本人はそんなもんなので終わっている事が多いように思う。日本語を学ぼうとしている生徒の中でも、日本文化を積極的に理解しようという姿勢がない生徒もい

る。ここでは一日に三回シャワーを浴びるのが普通なのだが、日本人はたいがい、一日に一回お風呂に入るのが普通なんだよと教えると日本人は汚いと平気で言うてくる生徒もいる。それは気候の違いによる差であるのに、表面的に聞いただけで自分達と比べて違うと思ってしまうのだ。これは私が教えている生徒に限ったことではない。自分と違う文化の人間に出会ったとき、その人の行動はとて異様なものに映るのは仕方ない。しかし、そこでこの人はそういうものなんだと終わるのではなく、どうしてそうするのかを聞いてみたらいいと思う。そこから、異文化理解が始まるのではないのだろうか?一方通行の異文化理解ではなくお互いの文化を尊重するのがほんとうのコミュニケーションだと思う。日本語教師として未熟ではあるが、日本語を日本文化を教えるだけじゃなく、そこから、異文化理解を生徒と共に考えていきたいと思っている。



皆できなこもちを作っている写真です。



同窓生インタビュー

第71回小説現代新人賞・第83回オール読物新人賞W受賞

竹村 肇 (1981年度 社会福祉学科卒) 高松市在住

小説を書き始めたのは高3の時から。入学後大学図書館で積極的に本を読み過ごした事がプロを目指す原点となる。1981年度社会福祉学科を卒業。1年間の地元大手書店勤務の後、上京し、宅配便ライダー、輸送トラック運転手を経て現在のタクシー乗務員となる。様々な職業に就きながらも一貫して原稿を書き続ける。趣味はモトクロスバイク。2003年4月小説家の登竜門である講談社、文藝春秋主催小説新人賞をW受賞。43才。

—今日はお仕事がお休みということでご自宅を訪問させて頂きました。(「パパ」と元気なお子さんの声。奥様も居らっしゃいました。)

この度は受賞おめでとうございます。最初に学院を卒業されてから現在のお仕事に就くまでをお聞かせください。

同級生が社会福祉関係の専門的な仕事に就く中、書店に1年程勤めていたのですが従来好きなバイクを使う仕事があったことや、プロダクションレースに出たいという夢もあって上京しました。その後バイクで書類輸送する宅配便というフリーター的な仕事や、出身地の高知でタクシー乗務員などを生活のために懸命にやってきました。現在は高松市川島町のグリーンタクシーに勤務しています。不況の中、タクシーは売り上げの数字が一番要求されるので厳しい業界です。現在は介護タクシーの免許を取得中です。

—受賞に際しご家族や勤務先の方の反応はいかがですか？

賞金が入ったので家族は喜んでいますが、妻は本を読む事に余り関心がないし、小説は受賞後、本に掲載されて初めて読みました。小学生、幼稚園の子どもはもっと無関心です。職場では「何を考えているのだ？」・・(挿絵がちょっと過激です)・・と内容について皮肉をこめた意見、ラストの部分は余分だったのでは？と様々な感想を聞かされました。私自身は20年振りに同級生から連絡を貰い飲み会をすることになっているので楽しみにしています。

—受賞作品「ゴーストライフ」「パパの分量」を読ませて頂きました。一気に読めてストレートな言葉がするすると入ってくる不思議な作品ですね。私は小説をよく読む方ですが作家の方々の書評を読んで受賞された意義を尚感じました。

選考委員の北方謙三氏が授賞式に居らして「2、3年後に何も書いていない君のタクシーにもし乗ったなら決して声を掛けるな。私にとって何も書いてない奴は存在しないと同じ。」の言葉が印象に残り、それが励みとなり嬉しかったです。今はプロになるきっかけのスタートに立ったところ。プロ作家になりたい気持ちはありますが今後どうなるかわからないので今は生活面を考えて仕事と両立させていきたいです。これからは新人同士が誌面の空気を争う

訳ですから難しいと思います。

—学院ではどのような学生だったのですか？キャンパスでの思い出の場所はありますか？

勉強は余りせずに好きな本ばかり読んでいたような。(笑)大学図書館は蔵書が多く其処ばかりに居たような思い出があります。放課後はオフロード・バイクで海岸寺などを走っていました。4回生の時初めて原稿を応募した思い出があります。

—今後関心を持たれていて書こうとしているテーマがあれば教えてください。

今書いている物は長編で、30代の頃高知でタクシー運転手をしていた経験をベースにタクシー業界の話にエンターテインメント的な恋愛テーマを入れて書いています。出版部の人に提出して「優」をもらえれば(笑)出版されるかも知れません。

—アイデアはどんな時に浮かぶのでしょうか？

タクシーの待ち時間に本を読んだりワープロを前に構想をまとめたり結果やストーリー展開はどうか結び着くのですがアイデアはなかなか出ません。

—日常的な生活を大事にされ、その中から言葉を表現し描写しているところが素晴らしいですね。今後のご活躍を期待しています。ところでタクシーの指名は出来ますか？

いえいえ、それは勘弁してください。(笑)

アットホームな笑いの中、玄関での写真撮影に気軽に応じて頂きインタビューは終わりました。新人賞W受賞という輝かしさでプロ作家へのスタートを切った竹村さんに同窓生としてエールを送りたいと思います。

これからもユーモアあふれる優しい人柄を保ちつつ執筆活動に励まれて一日も早く書店で「竹村肇」の本を見つければと思っただけの取材でした。

インタビュー/会報委員 飛田 由香

「ゴーストライフ」

受験生に幽霊が乗り移り、成績が良くなり好きな女の子からアプローチされこのまま行けば…。受験生の悲哀をテンポよく描く青春小説。(小説現代(講談社)5月号掲載)

「パパの分量」

近未来に起こりうるゴミ問題と家電製品の進化を背景に家族愛、ブラックユーモアを込めて中年男性の分量(存在価値)を問うSF小説。(オール読物(文藝春秋)5月号掲載)



「東谷バレエスクール」で活躍されている

東谷孝子 (1979年度 人文学科卒)

雄子 (1990年度 人文学科卒) 丸亀市在住

クラシックバレエ、優雅な舞台と音楽に惹かれその魅力に魅入られた方は少なからず居らっしゃると思います。2002年11月10日丸亀市民会館大ホールにおいて既に11回目を数える「東谷バレエスクール発表会」が行われました。演目は県芸術祭参加作品「くるみ割り人形」全幕上演ですが、参加者は会場入り口で渡される上質な装丁のプログラムに驚きます。そしてステージ上では、国内外からのゲストと門下生を合わせて80余名の出演という壮大な舞台が繰り広げられ、フィナーレ時の大きな拍手と共に熱い感動が広がりました。県都高松ではなく丸亀でこれだけの本格的舞台上演が行われるということで、より一層芸術文化への貢献が際立ちました。

次のご紹介は共に同窓生で、丸亀市浜町にスタジオを持ちロシアメソッドを基礎にバレエ団を主宰する東谷孝子さん、雄子さんご姉妹です。

—こんにちは。どうぞ。

(ご姉妹はピンと伸びた背が印象的な美しさで、愛犬の大きなダルメシアンのお迎えにちょっと驚きました。)

—まずバレエを始められたきっかけとその指導をお仕事にしようとなされた経緯を聞かせてください。

(孝子さん) 実は今は健康ですが、虚弱体質だった子どもの頃に両親がバレエを習わせて体質改善を計ろうとしたのがきっかけです。同時にピアノも習っていたのですが最終的にはバレエが残りました。今はカルチャー教室的なものを含めて多方面でバレエが身近にあります。当時は今ほどの理解が少なかったかも知れません。

仕事にしようとしたきっかけは、家族の健康面の心配があったため、就職は前提とはせず自分で教室を開きたい、と自宅2Fにレッスン場を持ちました。以来23年間バレエ指導を続けていますが、開設当時は保護者の方が自分より年上であり対処に苦慮することもありました。

—妹の雄子さんにお聞きします。お姉さんとはひとまわり年下で同じ人文学科ですね。学院での思い出について伺いたいのですが。

(雄子さん) はい。実は入学試験の当日が舞台打ち上げの翌日で、眠い目をこすりながら姉に送ってもらった事を覚えています。姉無くては学院に入学できませんでした。サークルには特に入っていませんでしたが、バレエは続けていました。

(孝子さん) 大学ではバレエにも通するように人間学的な内面を学ぼうと思いました。4年間は時間的にも穏やかに先生方は人間的に暖かな人が多かったですね。

—バレエの舞台について教えてください。昨秋に県芸術祭において「くるみ割り人形」が上演されたようですが、いかがでしたか？

「くるみ割り人形」は県の演目でしたが、私共の教室の発表会が10月、11月と同じ時期にありまして、振り付けが全く別のものでしたから、それはそれは大変でしたが2度楽しんで頂けたかと思います。

—これほどの舞台衣装をお母様が手作りされているとか。

衣装は東京のバレエ団のデザイナーから指導を受けて制作していますが、舞台のお世話からすべてを保護者の方始め多くの方が協力してくれますので、終わった瞬間は大きな感動を共有することが出来ます。

企業の協賛やご家族の理解で上演を行います。子ども達には本物に近づけたい、質の良いものを与えてやりたいとの思いで、著名な方をお迎えしたりで毎回勢威奮闘をしています。社会的には文化・芸術に対する理解がまだ低く、もう少し補助財源が豊かであればいいかと思っています。

—子ども達(特に思春期の女子)の指導で難しく思われることはどんな所ですか？

私達のスクールからプロになった門下生や留学してバレエを続けている方も居らっしゃいますが、一般的に育成は益々難しくなっています。現代の女の子達は大事なものをあっさり捨ててしまいがちで又そのような自分に迷いやすくなっていると思います。

指導を通して子どもの窓口となり一つのことを続けることで困難を乗り越える強い心を育てたいと思っています。

教えることで発生したストレスは自分のレッスンの中でゆっくりと解消出来ています。

「私達の影響で学院に進む女の子達も多いですよ。」との励ましの言葉を最後にインタビューは終わりました。

今回の発表会は隔年開催で2004年秋の予定だそうです。私達がこのような優雅な舞台を観る事が出来るのは、地道に一筋の道を求めて邁進し続けてこられる人達が居るからだと思改たにしました。

そしてその感動を創造する陰には、全員のたゆまない努力の凝縮があるからだと思います。

東谷さん姉妹のバレエに対する情熱がさらに大きく輪を広げ、益々のご活躍をされることを期待しつつ帰路につきました。

インタビュアー/会報委員 飛田 由香



同窓会 Topics

頑張れ我が天野投手!

昨年号でご紹介しました広島カープへ入団した天野浩一(2001年度 人文学科卒)投手。今期2年目ながらにして初勝利を上げられ、早くも中継ぎエースの座に就こうかとしておられます。失点が少ないという事で登板の機会が大変多く、頼もしいかぎりです。連夜の熱投を皆で応援しましょう。

学院からのご案内

四国学院年間スケジュール(2003年度)

4月	April	10月	October
2日 24日	入学式 全学遠足	7日～9日 20日 31日～11月2日	秋季キリスト教強調週間 学院創立記念日 大学祭
5月	May	11月	November
10日 14日 20日～22日	プレーデー 前期学生大会 春季キリスト教強調週間	19日 20・21・22日	パイプオルガン演奏会 推薦入学選考
6月	June	12月	December
14日 23～27日	オープンキャンパス マイノリティウィーク	3日 6日 22日	後期学生大会 第27回学長杯争奪駅伝大会 第27回メサイア演奏会 学院クリスマス クリスマス燭火礼拝
7月	July	1月	January
5日	ハンドベル・コンサート	3・4日 20日	一般入学試験(A) 大学院・編入(第二次)入学試験
8月	August	2月	February
2日	オープンキャンパス	3月 <th>March</th>	March
9月	September	5日 16日	一般入学試験(B) 卒業式
24日 26日	大学院・編入(第一次) 社会人入学試験 前期末卒業式		

秋季キリスト教強調週間/10月7日(火)～9日(木) 無料
★学外から講師を迎え、特別チャペル、講演会などのプログラムを持ちます。

パイプオルガン演奏会/11月19日(水) 19時 有料
★米国人オルガニスト、ジェームス・ドソン氏を迎え、演奏会を開催します。

第27回メサイア演奏会/12月6日(土) 18時 有料
★50名の合唱団、20名のオーケストラ、4名の独唱者、パイプオルガンやチェンバロも加わった本格的なバロック・スタイルの演奏会です。ハレルヤ・コーラスをはじめ名曲が多数ございます。

クリスマス燭火礼拝/12月22日(月) 無料
★燭燭の灯りの中で、聖書朗読や音楽を聴き、特別講師よりクリスマス・メッセージをうかがいます。心あたたまる静かなクリスマスを、じっくり味わってみませんか。

お問合せ 四国学院 宗教センター
0877-62-2111(内線250)

夏山シーズン到来

“祖谷山ロッジ”のご紹介 宿泊料 1,000円

学院は自然が美しい徳島県三好郡東祖谷山村に素敵なロッジを所有しています。卒業生も利用できるそうですので、お気軽にお問合せください。

お問合せ
四国学院 学生課
0877-62-2111(内線208)

ログス館利用案内

旅行の宿、同窓会場としてお気軽にご利用ください。1階ホールのみのご利用も可能です。週末は大変混み合いますのでお早めにご予約を。
休館日/お盆・年末年始

部 屋	定 員	室 数	使 用 料
2階和室	10人	2	一人 1,200円
2階洋室(ベッド)	8人	2	一人 1,200円
3階和室	4人	2	一部屋 7,500円
3階個室	1人	4	一部屋 3,000円

お問合せ・お申込は **四国学院同窓会事務局**

事務局からのお知らせ ★会報に関しまして何かご意見・ご要望がございましたらご連絡ください。

年1回発行の会報だけでは同窓会活動や四国学院の企画案内等、タイムリーな情報を提供するには限りがあります。是非、同窓会や四国学院のホームページをご覧ください。
“掲示板”も設けていますので、同窓会の案内や個人の近況報告等、交流が図られますようご自由にご利用ください。

お便り募集
サークル・ゼミ・他諸団体のOB会の案内や報告、また同窓会、四国学院へのご意見、お待ちしております。


サークル・ゼミのOB会登録
当会では、卒業後の各団体での盛んな活動を支援しご協力を致します。団体登録をして頂きますと必要時、会員の最新の住所で名簿や宛名ラベルを作成致します。尚、作成にあたりましては、個人の申出がございましたらデータの提供は行わないよう注意も払っておりますのでご連絡ください。

会員名簿の販売
1999年度版 定価4000円(送料込み)販売は、会員のみ限定しています。

住所変更届のお願い
全国的な市町村合併等による住所表示の変更や、ご結婚・転職等で住所等が変わられる場合は必ずご一報ください。

ご注意ください
当会とは一切関係のない団体から、電話やハガキで住所調査や寄附の勧誘等があったと連絡を頂いております。当会による活動につきましては、会報やホームページで前もってお知らせ致しますので、充分ご注意ください。

編集後記



取材をさせて頂くようになって早いものでもう5年目ですが、その都度多くの方から様々な方面で活躍されている卒業生の情報の提供を頂き感謝しております。取材の要請から始まり、事務局の藤川さんとのアマチュアコンビで校正が上がるまで邁進していますが、皆さまの暖かいご協力のお陰を持ちまして今年号もお送りする事が出来ました。
これからも心待ちにしていたらごうな同窓会報に成るよう励んで参りますので宜しくお願い致します。

会報委員
飛田 由香(1983年度 英語科卒)